

# 高校生作文に見られるテ形節の特徴

——国語教科書との比較を通して——

松本理美

## 一 はじめに

外国にルーツがあり、日本語指導が必要な高校生<sup>①</sup>（以下、外国ルーツ高校生）を含む高校生の日本語作文について文法の視点から調査した研究は少ない。高校生の日本語リテラシー教育の進展にとつて、高校生作文の現状を把握するための実態調査は必須である。高校生作文と学校の国語教科書掲載の文章の複文について調査を行った松本（二〇一七）は、高校生作文には副詞節・並列節（以下、連用節）の出現割合が非常に高いことを明らかにしたが、連用節の節末形式と用法について詳しくは分析していない。そこで本稿では、高校生作文に高い割合で出現する連用節の中で、日本語学習者の作文のわかりにくさの原因にも挙げられるテ形の連用節（以下、テ形節）のうち、時間節、原因理由節、付帯状況・手段節の三つの用法に着目した分析を行う。

テ形節に関する先行研究では、南（一九七四）、寺村（一九九

一）、蓮沼他（二〇〇一）、日本語記述文法研究会（二〇〇八）などテ形節の意味・統語に着目した研究が多い。作文を対象とした実態調査に基づく研究では、日本語学習者の文章における言語面の分析を試みた田代（二〇〇五）が、わかりにくいと評価された文章においては、節の接続がテ形節に偏りやすいことを明らかにしている。そして、わかりにくいと評価された文章では、テ形節に「継起・原因理由・付帯状況などさまざまな意味を持たせている」ため、「論理関係が明示的ではなく、読み手にとつて理解の負担が大きくなりやすい」（田代 二〇〇五・八）と指摘している。作文の実態調査において日本語学習者を対象としたものはみられるが、外国ルーツ高校生や留学生を含む高校生の日本語作文を対象にテ形節について調査・分析したものはみられない。

本稿では、(1)のような外国ルーツ高校生を含む高校生作文に見られるテ形節に着目して分析を行う。

(1) さいごのさいごはしゃんをとつてつたパネルを解体

してせんばいいうでずもしてかいさんしたです。(外国ルーツ高校生作文、原文まま、傍線筆者)

(1)は、連体節一つと連用節三つを含む複文であるが、連用節はすべてテ形で接続している。このようなテ形節について、高校生作文と小学校・中学校・高校の国語教科書の文章とを比較し、その特徴を明らかにする。

調査資料は、学校行事をテーマにした外国ルーツ高校生作文(四八編)、日本人高校生作文(一六六編)、留学生作文(六六編)と、小学校・中学校・高校の国語教科書に掲載されている説明文・論説文(小学七編、中学七編、高校八編)である。外国ルーツ高校生三五名の出身は、中国二八名、ネパール二名、インドネシア・ブラジル・アメリカ・フィリピン・パキスタン各一名である。日本語能力は中上級で、日本語を流暢に話す。来日歴は平均三年(最長一年、最長八年)である。留学生は六六名で、すべて中国からの留学生である。

調査資料について、①学校教科書と高校生作文には、テ形節がどの程度使用されているか、②学校教科書と高校生作文では、テ形節の用法による出現割合に差があるか、③学校教科書と高校生作文には、複数の異なった用法のテ形節が混在する文がどの程度出現するか、について計量分析を行う。

二節では、複文を構成する接続節を補足節、連体節、連用節に分類し、複文構成において高校生作文と国語教科書の文章を比較

する。三節では連用節中の副詞節におけるテ形節について、本稿で着目する時間節<sup>③</sup>、原因理由節、付帯状況・手段節の用法を分類する基準について詳しく述べる。四節では高校生作文と国語教科書の文章中出现する三つの用法(時間節、原因理由節、付帯状況・手段節)のテ形節の使用実態と特徴について、用法ごとに実例を挙げながら議論する。五節では日本人高校生作文と外国ルーツ高校生作文に特に多く見られた、複数の異なった用法のテ形節が混在する文について実例を挙げながらその特徴を述べる。最後に六節で本稿をまとめる。

## 二 高校生作文と国語教科書の複文構成の比較

高校生作文<sup>⑤</sup>と国語教科書掲載の文章における複文の接続節について、松本(二〇一八)の意味分類基準<sup>③</sup>を用い、すべての接続節に手作業により分類タグを付与して計量分析を行った。結果は図1に示した通りである(以下、グラフ中の数字は頻度を表す。ラベルは略称を用い、小学校国語教科書を「教科書(小)」、中学校国語教科書を「教科書(中)」、高校国語教科書を「教科書(高)」、外国ルーツ高校生作文を「作文(外)」、日本人高校生作文を「作文(日)」、留学生高校生作文を「作文(留)」とする)。

高校生作文と教科書では、連体修飾節と連用節の出現割合に顕著な差が認められた。教科書では学校種が上がるほど、連体修飾節の出現割合が高くなり、連用節の出現割合が低くなる傾向が認

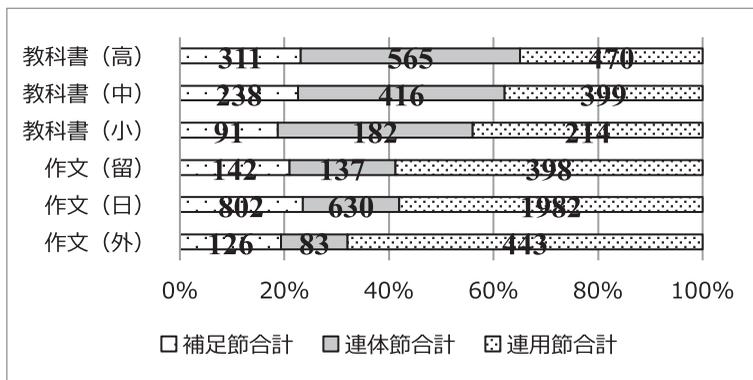


図1 高校生作文・学校教科書の複文構成

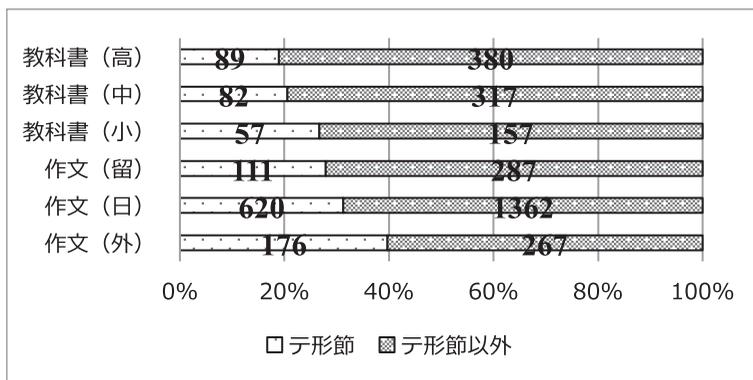


図2 すべての連用節中のテ形節の出現割合

められ、中学校、高校の教科書になると、連用節よりも連体節の出現割合の方が高くなることが確認された。一方、高校生作文では、連体修飾節の出現割合が非常に低く、連用節が接続節の六割（外国ルーツ高校生では七割）を占めている。

本稿では、出現割合において、高校生作文と教科書に顕著な差が見られた連用節に着目する。連用節の節末形式がテ形か否かに分けて計量分析したところ、図2に示した通り、外国ルーツ高校生作文ではテ形節がすべての連用節の四割を占め、その割合は高校教科書の二倍以上であった。日本人高校生、留学生については、小学校の国語教科書に近い割合で出現することが確認された。

高校生作文、国語教科書に出現したテ形節は時間節、原因理由節、条件譲歩節、付帯状況・手段節、並列節であった。そのうち、高校生作文と学校教科書を比較したとき、出現割合に特徴が認められた時間節、原因理由節、付帯状況・

手段節の三つの用法のテ形節を対象に分析を行う。

### 三 テ形節の三つの用法の分類基準

三節では、本稿で着目する時間節、原因理由節、付帯状況・手段節の三つの用法のテ形節について、その分類基準を述べる。まず松本(二〇一八)の分類基準を用い、各用法における典型的な節末形式への言い換えによる分類を行った。しかし、複数の異なる用法の節末形式への言い換えが可能で、どの用法に分類するかの判断が難しく、二種類のタグ付与を容認したものがあった。このようなテ形節について、有田(二〇〇七)、Hasegawa(一九九六)、益岡(一九九七)が指摘する統語的性質(表1、太枠部分)を基準とすることにより、より精密な分類が可能となる。

次の表1では、三つの用法について、典型的な節末形式の言い換えによるテ形節の用法分類(一段目)に加え、複文の関係節であるテ形節(前件)と主節(後件)の主語が一致している場合と、一致していない場合に分けた上で、前件と後件の動詞の意志性の有無により分類できることを示している(二段目・三段目)。また、否定形にしたときの形式(四段目)、アスペクト要素(テイル)を付加した表現の可否(五段目)を用いて分類することも可能である。<sup>10)</sup>

次に松本(二〇一八)の基準だけでは用法が一つに定まらなかったテ形節(傍線部)が、表1(太枠部分)の基準を加えること

表1 時間節・付帯状況・手段節・原因理由節の分類基準

	時間節		付帯状況・手段節		原因理由節	
	前件	後件	前件	後件	前件	後件
節末形式の典型	テ+から、 とき	-	ながら、 状態で	-	タ+から、ので、 せいで、おかげで、 事で、為(に)	-
主語同一	○ (行為終了)	○	○ (並行)	○	× (主節の理由)	○
			×	○	✓ (因果関係の含意)	×
主語非同ー	/				✓ (主節の理由)	○
					✓ (因果関係の含意)	×
否定形	ナイデ	-	ナイデ	-	ナクテ	-
アスペクト要素 (テイル)	不可	-	不可	-	可	-

※表中の○・×は動作主の行為の意志の有無、✓はいずれも可、を意味する。

で一つの用法に分類可能となった実例を挙げる（傍線は筆者）。

(2) ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さ  
をいやがうえにも引き立てるだけである。（高校教科書）

(2)は、松本（二〇一八）の基準に基づくくと、「〜時を刻みながら（付帯状況）」とも「〜時を刻むため（原因理由）」とも言い換えることができ、付帯状況・手段節にも原因理由節にも分類が可能である。そこで、表1（太枠部分）の基準を用いる。前件、後件の主語は同一であるため、付帯状況・手段節、原因理由節のどちらに分類するかは前件、後件の動詞の意志性で判断することになる。(2)の主語は非情物であり、前件、後件ともに無意志動詞であると判断されるため、このテ形節は原因理由節に分類され、後件との因果関係が含意された節ということになる。

#### 四 テ形節の三つの用法の使用実態

四節では、高校生作文と教科書におけるテ形節の三つの用法の出現割合（図3）と、時間節におけるテ形節の出現割合（図4）を示す。さらに、それぞれの用法の実例、および複数の用法のテ形節が混在する実例を挙げてその特徴について議論する（実例は原文まま。実例中の傍線は筆者による）。

テ形の時間節は、教科書にはほとんど出現しないが、日本人高

高校生作文に見られるテ形節の特徴

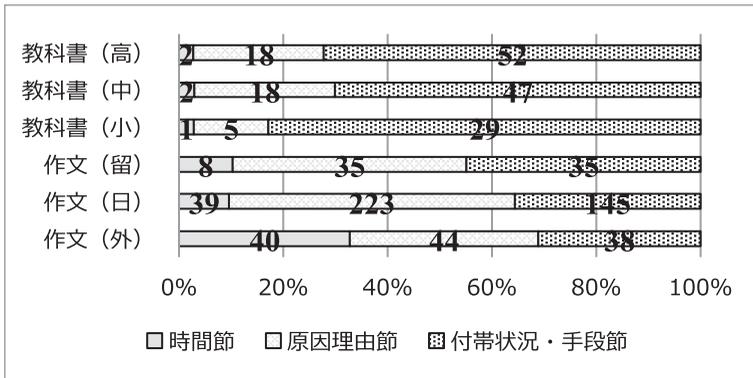


図3 テ形節の三つの用法の出現割合

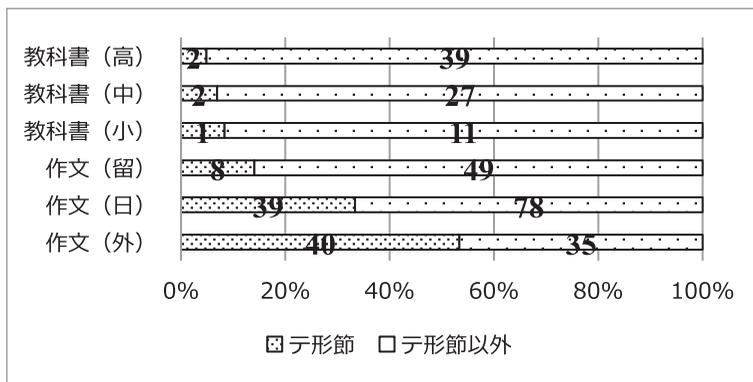


図4 時間節におけるテ形節の出現割合

- (3) クラスでせんせいのはなしきいてふくきがえました。  
(外国ルーツ高校生)
- (4) さいごのさいごはしゃしんをとってつたパネルを解体してせんばいうでずもしてかいさんしました。(外国ルーツ高校生) (再出)
- (5) 高校に入学して、初めての体育祭、とても楽しかったです。(日本人高校生)
- (6) そして学生たちが好きな料理を買って食べて、とても楽しい。(留学生)
- (7) そして、腸のかべから吸収され、血管を通してチロの体全体に運ばれて、そこで再びタンパク質に組みかえられ

校生、留学生の作文には一割程度、外国ルーツ高校生作文には三割以上の出現が確認された。図3、図4に示した通り、外国ルーツ高校生作文では、教科書に比べ、テ形節の三つの用法における時間節の割合も、時間節におけるテ形節の割合も顕著に高いことが分かる。

外国ルーツ高校生作文に多用されているテ形節が、他の高校生作文や国語教科書ではどのように使用されているのか、その使用実態について議論するため、以下に、三つの用法のテ形節の使用例を時間節、原因理由節、付帯状況・手段節の順に挙げる。

まず、高校生作文と国語教科書からテ形の時間節の例を挙げる。

ます。(小学校教科書)

(8) 「ありがとう。」と、かすれた声で言つてその店を出た。

(中学校教科書)

(9) 映画を見終えて、映画館から出てきたときの感じなども、まさに、例としてびつたりだろう。(高校教科書)

外国ルーツ高校生作文では(3)のようなテ形の時間節の出現割合が非常に高く、(4)のようにテ形の時間節が一文に繰り返し使用される例も少なくなかった。日本人高校生作文には三九例のテ形の時間節が確認されたが、その六割(二四例)は、(5)のようにそれぞれの作文の文頭で使用されており、「(学校行事)を終えて」や「(高校)に入学して」にあたるものであった。これは、作文のテーマが学校行事であったことによるものであると思われ、外国ルーツ高校生作文に多用されているテ形の時間節とは分けて考える必要がある。留学生作文においても八例中三例は日本人高校生作文と同様に文頭で使用されているものであった。これを差し引いて考えると、日本人高校生作文、留学生作文に見られるテ形の時間節は一割前後となり、小学校の国語教科書程度の出現割合になると考えられる。

国語教科書におけるテ形の時間節は、小学校の国語教科書には(7)の一例のみ、中学校の国語教科書には(8)を含め二例、高校の国語教科書にも(9)を含め二例のみと、いずれの国語教科書にもほとんど出現しなかった。国語教科書では、時間節の節末形式は「

時(とき)」が最も多く、他に「前」「際」など前節と後節の時間関係を明示する多様な節末形式が用いられていることが明らかになった。

次に、テ形の原因理由節の例を挙げる。

- (10) 椅子をいっぱい持ってしんどかったです。(外国ルーツ高校生作文)
- (11) 売っているとき、みんな盛り上がっていて楽しかったです。(日本人高校生)
- (12) 人しかいなくて、大道具や服装などを作るにもけっこう時間をかかりました。(留学生)
- (13) ゴーシュは、弾き方が下手で、いつも指揮者にしかられていた。(小学校教科書)
- (14) さらに、捕獲説には、月が大きすぎて、地球の重力で捕獲するのが難しいという問題もある。(中学校教科書)
- (15) 毎日部活動と勉強に明け暮れて、あつという間の歳月でした。(高校教科書)

蓮沼他(二〇〇一:一二二)は原因理由のテ形節について、「カラ・ノデのように、因果関係を明示的に述べる表現とは異なっており「ある出来事がひきがねとなって生じた感情変化を表す場合には、テを使うのが自然で」とあると説明している。高校生作文では、(12)のように主節の原因理由を明示するテ形節もあるが、

(10) (11)のように書き手に感情の変化が生じた出来事を表すテ形節の  
 ほうが多かった。一方、国語教科書では、書き手の感情変化のき  
 っかけとなる出来事を表すテ形節はほとんど見られず、(13) (14) (15)  
 ように主節の原因理由を明示するテ形節が大半を占めた。

次にテ形の付帯状況・手段節の例を挙げる。

- (16) 本人は、笑つて痛くないといいました。(外国ルーツ高  
 校生作文)
- (17) 文化祭のほとんどは、模擬店にいて食べているか、しゃ  
 べっているかどっちかでした。(日本人高校生作文)
- (18) 普段同じ制服を着ているクラスメイトがダンスの服を着  
 て踊る時完全に別人になった。(留学生作文)
- (19) 卒業のときに、教授から、研究室に残つて学者の道に進  
 まないかとさそわれる。(小学校教科書)
- (20) 一さじ一さじかむようにして味わった。(中学校教科書)
- (21) すると彼は目を丸くして、こう言った。(高校教科書)

(16) (21)のような付帯状況・手段節中のテ形節は、時間節や原因  
 理由節中のテ形節に比べると、高校生作文文、国語教科書掲載の文  
 章のいずれにおいても高い割合で出現している。これは、付帯状  
 況を表す接続節の節末形式が限られているためであると考えられ  
 る。すべてのデータにおいて、付帯状況を表す節末形式には、テ  
 形、「ながら」、連用形が使われ、その他の形式はほとんど現れな

い。「まま」が外国ルーツ高校生作文、小学校・中学校の国語教  
 科書で各一例、「つつ」が高校教科書で三例、日本人高校生作文  
 で二例出現しているのみである。

四節をまとめると、国語教科書におけるテ形の三つの用法の出  
 現割合は、節末形式の種類が少ない付帯状況・手段節で最も高か  
 った。国語教科書では、時間節は主節との時間関係を明示的に述  
 べる接続形式が用いられ、原因理由節では連用形接続、付帯状況  
 ・手段節はテ形接続と、用法による接続形式の使い分けがみられ  
 た。一方で、高校生作文(特に外国ルーツ高校生作文)では、テ  
 形の時間節の出現割合が高く、図3、図4や実例からも、テ形が  
 どの用法にも多用されていることが明らかになった。

#### 五 異なった用法のテ形節が混在する文

五節では、特に高校生作文(中でも日本人高校生作文と外国ル  
 ーツ高校生作文)に多く見られた、複数の異なった用法のテ形節  
 が混在している文について、実例を挙げながら議論する。

- (22) そして間中の人はぬけて、はしこを持って低くして、ク  
 ラス全員をシャンプして、越て、そしてまだ上で、竹  
 をみんなの頭の上に持つて行く。(外国ルーツ高校生作  
 文)

- (23) はじめにネットをくぐつて次にテニスマケットの上にボ

ールをのせてはしつていて二人でフラフラの中には  
いつてゴールするといふものです。(日本人高校生)

(24) 一日中ずつと熱すぎで、日焼け止めも何回塗って、ほか  
の人の試合中の様子を見て自分も体験しました。(留学  
生作文)

(22)では時間節、付帯状況・手段節、並列節が、(23)では時間節、付  
帯状況・手段節が、(24)では原因理由節、並列節、付帯状況・手段  
節がすべてテ形節で接続している。作文において、このように異な  
った用法のテ形節が接続している文は、読み手の負担が大きくな  
り、「わかりにくい」文と評価されるものの一つであると考えら  
れる。

(22)～(24)のように複数の異なった用法のテ形節が接続する文は、  
小学校教科書で二例、中学校教科書で五例、高校教科書で四例と  
多くは見られなかった。一方で、高校生作文では、外国ルーツ高  
校生作文に一六例、日本人作文に六九例、留学生作文に九例見ら  
れた。その中で三つ以上の異なる用法のテ形節が接続する文は、  
教科書では高校教科書に一例確認されたのみであったが、外国ル  
ーツ高校生作文では七例、日本人作文では一八例出現しているこ  
とが確認された。この傾向は、外国ルーツ高校生の出身にかかわ  
らず、外国ルーツ高校生作文全般に確認された。<sup>11)</sup>

五節をまとめると、国語教科書の文章において複数の連用節を  
含む複文はみられるが、(22)～(24)のように異なる用法のテ形節が多

用される例はほとんど確認されなかった。これらは、小・中・高  
いずれの国語教科書においても共通していた。一方、外国ルーツ  
高校生作文と日本人高校生作文では、(22)(23)のように異なる用法の  
テ形節が連鎖している例も少なからず見られた。

日本語学習者作文でテ形節の多くが継起用法で使用されているの  
とした田代(二〇〇五)と、本稿の調査結果が異なっているの  
は、日本語学習者と外国ルーツ高校生の学習環境の違いによるも  
のであると考えられる。

外国ルーツ高校生を担当する高校教員は、外国ルーツ高校生の  
日本語リテラシーについて、「作文は書けないが、日本語は流暢  
に話す」と語っている。外国ルーツ高校生の多くは、段階的な日  
本語教育を受けることなく、日本語は学校などの生活の場で、日  
本語母語話者の話し言葉から学んでいると考えられる。

丸山(二〇一四)は、節連鎖は書き言葉より話し言葉の方に多  
く現れ、話し言葉にはテ形節やケド節の連鎖が多いと述べてい  
る。口語的な文体で、テ形節を多用している外国ルーツ高校生作  
文の特徴は、丸山(二〇一四)が指摘する話し言葉の特徴に合致  
しており、これは外国ルーツ高校生が日本語母語話者の話し言葉  
から日本語を学んでいることを裏付けている。

## 六 おわりに

小学校・中学校・高校の国語教科書には、複文構成、テ形節の

出現割合、用法による節末形式の使い分けに共通の特徴が見られたが、国語教科書と高校生作文では、複文構成、連用節におけるテ形節の割合、三つの用法のテ形節の出現割合のすべてが異なっていた。特に、外国ルーツ高校生作文には、日本語学習者と同様にテ形節の多用は見られたが、日本語学習者に見られる時間節に偏った多用ではなく、時間節、原因理由節、付帯状況・手段節のすべてにおいて高い割合で出現するという異なる特徴が見られた。これは、テ形節の連鎖が多い話し言葉に一致する特徴であり、高校生作文には話し言葉のような文体で書かれているものが多いことを示唆している。

作文において、連用節の節末形式を用法により使い分けることは、文法の面からだけではなく文章構成の面からも重要である。話し言葉のような文体で作文を書いている高校生（特に外国ルーツ高校生）にとって、適切な節末形式を用いて複文を産出するための指導が求められている。それは、単にテ形の連鎖が何回までなら許容されるかという表層的な問題ではない。節末形式の選択は、何を・どこで・どのように表現するかという文章の構成と、それを書き言葉で表現するという作文指導の重要な要素である。テ形節における使用実態の解明により得られた分析結果は、より効果的な作文指導のための有益な情報となるであろう。

## 注

(1) 外国で生まれ育ち、本人または親の母語が日本語ではな

く、親に伴って来日した生徒で、留学生とは区別する。国  
籍、母語、家庭での言語、来日時の年齢などは多様であ  
る。

(2) 日本語学校や、高校・大学などで教科として日本語を段階的、体系的に学習した(している)ものを指す。

(3) 国語教科書を比較対象とするのは、学校の授業での使用率が高く、該当学年で獲得すべきリテラシーに見合った文章が掲載されていると考えるからである。

(4) 松本・有田(二〇一九)参照

(5) 本稿では時間的継起を表すテ形を時間節に含める。

(6) 特に断りなく「高校生作文」とした場合は、外国ルーツ高校生・日本人高校生・留学生の作文全てを指すものとする。

(7) 複文、節の定義は原則として益岡・田窪(一九九二)に従う。

(8) 後に、原因理由・手段節を原因理由節に、付帯状況節を付帯状況・手段節に改めている。

(9) 本稿では、副詞節と並列節をまとめて連用節とする。

(10) これらの基準によりすべてのテ形節の用法が一つに決まるわけではない。接続節の分類についての詳細は別稿に譲る。

(11) 本調査においては、外国ルーツ高校生の出身によって異なる傾向が見られなかったとは言え、それを明言するには

データに偏りがある(出身が中国に偏っている)ため、更なるデータ収集が必要である。

(12) 調査協力校の担当教員へのインタビューによる。

#### 付記

本稿は、日本語文法学会第一九回大会(二〇一八年十二月於立命館大学)での口頭発表「外国ルーツ高校生作文に見られるテ形節の特徴―国語教科書との比較を通して―」をもとに、大幅な加筆修正を行なったものです。発表に際し、貴重なご意見・ご助言を賜りました。ここに記してお礼申し上げます。

#### 参考文献

有田節子(二〇〇七)『日本語条件文と時制節性』、くろしお出版

Hasegawa, Yoko (一九九六) *A study of Japanese clause linkage: the connective TE in Japanese*. Kurushio Publisher & CSLI.

蓮沼昭子・有田節子・前田直子(二〇〇一)『日本語文法 七 ルフマスターシリーズ7 条件表現』、くろしお出版

丸山岳彦(二〇一四)『現代日本語の多重的な節連鎖構造について』、石黒圭・橋本行洋(編)『話し言葉と書き言葉の接

点』、ひつじ書房、九三―一四頁

益岡隆志(一九九七)『複文』、くろしお出版

益岡隆志・田窪行則(一九九二)『基礎日本語文法 ―改訂版

―』、くろしお出版

松本理美(二〇一七)『外国ルーツ高校生の作文における複文

の特徴―副詞節の節形式の量と質の分析―』、立命館大学

大学院修士論文

松本理美(二〇一八)『日本語従属節の意味分類基準策定につ

いて―鳥バンク―節間意味分類体系再構築の提案―』、

『国立国語研究所論集』(15)、一〇七―一三三頁

松本理美・有田節子(二〇一九)『国語教科書における連体修

節構築 ―外国ルーツ高校生の日本語リテラシー教育の

ための基礎調査―』、『KUS Selected Papers』1、関西言語

学会、七三―八四頁

南不二男(一九七四)『現代日本語の構造』、大修館書店

日本語記述文法研究会(二〇〇八)『現代日本語文法 6』、く

ろしお出版

田代ひとみ(二〇〇五)『日本語学習者のストーリー説明文の

問題点…わかりにくさという観点から』、『言語文化と日本

語教育』30、お茶の水女子大学日本語文化学研究会、一

―一〇頁

寺村秀夫(一九九二)『日本語のシンタクスと意味 Ⅲ』、くろ

しお出版

#### 資料

・小学校国語教科書…『国語6 創造』、光村図書出版株式会

社、二〇一五年（一川誠「時計の時間、心の時間」、中村桂子「生き物はつながりの中で」、山本東次郎「柿山伏について」、畑山博「イーハトーヴの夢」、「伝えられてきたもの」、「狂言 柿山伏」、「私と本」）

• 中学校国語教科書…『国語3』、光村図書出版株式会社、二〇一六年（今道友信「温かいスープ」、鷺田清一「誰かの代わりに」、藤代裕之「想いのリレー」に加わろう」、小久保英一郎「月の起源を探る」、竹内正彦「古典を心の中に」、山極寿一「作られた「物語」を超えて」）

• 高校国語教科書…『国語表現Ⅰ』、教育出版、二〇〇五年（内海隆一郎「世界との対話」／『国語総合』、教育出版、二〇〇六年（山崎正和「水の東西」、森本哲郎「やっばり」、樺島忠夫「情報時代に必要な文章能力」／『現代文改訂版』、教育出版、二〇〇八年（西研「考えることのおもしろさ」、港千尋「学ぶことの身体性」、小池昌代「瞬く間」をのぞいてみる）／『精選現代文B』、筑摩書房、二〇一四年（鷺田清一「ふわふわ」、清水哲郎「死と向き合う」）

（まじもと・さとみ 本学大学院博士課程後期課程）